

真庭市立勝山小学校(〒717-0007 岡山県真庭市本郷 1801) 令和3年度 学校だより 48号(3月6号修了式)
幸せになる練習 子育ては待つ練習 夫婦は許す練習 人生は笑う練習 気持ちの良いあいさつ率 17.9%(3月24日朝)



勝山

★勝山漢字HP掲載中★

卒業するまでに、逆上がり、二重跳び50回以上、漢字は毎回100点をとれる子に

Tel:0867-44-3141 Fax:0867-44-3142 Mail:katsuyama_es@maniwa.gse.okayama-c.ed.jp

小学校で大切なこと
学校が好き
学び方がわかる
人とうまく関われる
コロナに勝つ!!



学んだ証は 変わること

修了 おめでとう

ついに出了!!

勝小初三重跳び・・・5年生男子4名がやってくれました。少なくともこの2年間勝山小に存在しなかった子どもです。私が密かに喜んでいるのは男子の活躍。性差を持ち出すと時に問題にもなる時代ですが、学力やリーダーシップ面で圧倒的に女子がリードしているのが現実です。男子の活躍で女子の心に火がつき全体のレベルアップにつながるとうれしいな。

右の写真は、バス通学の子が運転手さんにおじぎをしているところです。今年度もこの写真を掲載しました。昨年度、6年生の香川くんが良い手本を示し、現5年生の山根悠夢くんが受け継いで広がった運転手さんにお礼のおじぎをする文化。今年度はさらに広がり、自分が乗ったバスだけでなく友達に乗っているバスの運転手さんにまで友達と一緒に おじぎをする子が現れました。これは神代バスの子が城北バスの運転手さんにおじぎをしているところです。いい行いは下の学年に伝えていく・・・すばらしいことですね。6年生の山本愛華さんの手に注目。下級生におじぎをするように促しています。今後もこうして勝小文化が引き継がれることを希望しています。いいぞ!勝小!!!



朝から元気いっぱい!!

これは昼休みではありません。朝一の運動場の様子です。南の国からツバメが戻り、暖かい日が多くなりました。朝から50人以上が走り回る勝小の運動場。コロナ禍を忘れてしまいそうな勝小の子どもたちの元気良さ。このエネルギーは必ず学ぶ意欲にもつながります。いいぞ 勝小!!!!!!



勝小の学力

NRT **47.8**
やや低い

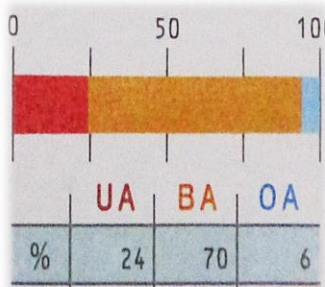
国 **48.0**
算 **47.7**

教研式学力検査 NRT の結果です。今年度の目標値は国・算とも偏差値 **50** 以上でしたが、残念ながら今年度も達成できませんでした。その他の目標値…

国語の言語：105 以上 ➡ **101.1** もう少し

算数の計算：100 以上 ➡ **103.4** ◎

勝小の学力は「やや低い」という結果です。偏差値 47.8 は 100 校中 59 番あたりです。※昨年度は 47.1 で 62 番



59番…今度こそ!!

学習意欲が高まり、国語・算数ともに基礎基本の全国平均を超えました。言語と計算の目標は計算のみ目標値を超えました。今年こそ偏差値 50 を超えたかったのですが…残念。左上のグラフをご覧ください。これは勝山小全体の学力の傾向（能力に見合った学力がついているか）を示したグラフです。これからわかることは、勝小の児童は OA（努力によって成果を出すことができる）の子が少なく、UA（自分はどうせできないと誤った自己評価をしている子）が多いことです。一概に OA が良くて UA が良くないとは言いきれませんが、できれば努力で成果が出せる子に育ててほしいと思うのです。UA の子には努力の過程を評価するようにし、OA の子には他者に厳しすぎたり失敗で立ち直れなかつたりしないよう配慮します。また、右のグラフは教科の 5 段階分布。正規分布に近いですがやや下位に偏っています。大切なことは心も体もバランス良く伸ばすこと。勝山小が学力的に伸びるためには、**■授業の約束の徹底（学校の課題）** **■家庭学習時間の不足。特に土日（学校家庭連携の課題）**。これらを意識しながら主体的に学ぶ子を育てることです。特に、生活科や総合的な学習の時間を大切に、今まで以上に地域に出かけ、問題を解決する力を身につけさせたいところです。この結果をもとに、来年度以降の学力向上策を検討します。合い言葉は**今度こそ**です。次年度もご支援ご協力をお願いいたします。

コロナ禍を逆手に、学校課題の解決

コロナ禍で予測された課題の一つは、「不登校・自殺の増加」です。これは、コロナ禍による「生きる力（生活意欲）の低下」が原因です。生きる力の低下は、「体力や学力の低下」を招きます。コロナ禍の学校生活では、感染症対策が強く求められ、運動会や修学旅行などの学校行事や日常的に大切にしてきた人間同士の「ふれあい」や「つながり」を否定する対応も多いです。だからこそ、人間同士の「ふれあい」や「つながり」を意識した学校経営が今まで以上に重要になります。つまり、生活意欲を高め生きる力を育む学校づくりです。

■私は、本校の学校課題の要因は、子ども同士だけでなく親同士、学校・地域・保護者の連携のまずさにあると考えてきました。それは学校力の弱さと言い換えられます。つながっていれば何でもないことなのに…。そんな出来事に時間を費やし、子どもたちに向き合う多くの時間を失ったこともありました。学校の主役である子どもにとっての「楽しい学校」は、学校・地域・保護者の関わりなくして実現できません。そこで、学校の困り感を発信し、保護者や地域人財、関係機関を巻き込むように心がけてきました。そうすることで、共通認識をもって子どもたちを育てられると思っています。5月に立ち上げた「勝山 SSC（学校地域協働本部）」、23年ぶりに実施した「地区懇談会」は人間同士の「ふれあい」や「つながり」を意識した取組です。これらは令和 5 年度のコミュニティスクール導入にむけて必ず大きな力となります。コロナ禍にあることで、学校教育の目的を強く意識することになり、学校課題を解決する手立てや道筋がより明確になりました。まさに、ピンチは大きなチャンス。■鈴神社から見おろす勝山小と勝山城下、勝山祭は地域の人たちのどんな思いを受け継いできたのか…。子どもたちのふるさと勝山。大人になった時、地球上のどこにいようと自分のふるさと勝山を色つきでイメージできる。そんな子どもに育ててほしい。そのために、保護者や地域をどう巻き込むのか。AIにはまねのできない創造力を駆使し、勝小にしかできない「勝山を味わい尽くす」教育課程の実現を願ってやまみません。

感謝状
校長 奥山 仁様
いつもぼくたち私たちを見守ってくださりありがとうございました。寒い冬も暖かく過ごさせてもらいました。校長先生の情熱のおかげで、冬も暖かく過ごす事ができました。学んだ証は愛あることを胸にがんばります。
令和 5 年 10 月 1 日



左は、卒業式後謝恩会に招待してもらい、子どもたちからもらった感謝状です。寒い冬が暖かく…。そう感じてくれたんだね。ありがとう。この 1 年間、支えてくださった保護者・地域全ての皆様にお礼申し上げます。最後まで読んでいただきありがとうございました。

